



アイヌタイムズ

第46号

2008年11月17日(月) アイヌ語ペンクラブ

アイヌタイムズ第46号(2008年11月17日発行)からアイヌ語抜粋
著者: 横山裕之

先住民族 サミット

(アイヌ イタク [アイヌ語])

G8 サミット アン エトク タ、2008 パ 7 チュブ
1 ト ワノ 4 ト 7 パクノ、アイヌモシリ オロ
タ、ニホン ネヤ ウサ オカ モシリ ネヤ オロ
ワ 2008 先住民族 ウタラ イヨロツ パ ワ "
先住民族 サミット" アイヌモシリ 2008 アン
ルウエ ネ。

7 チュブ 4 ト タ、札幌 オロ タ ネ 会議 アン
ワ、オカケ タ G8 エウン アサンケ カン
ピ コピー アエンコレ ワ クヌカラ クス、ネ
オルシペ クヌイエ クス ネ。

オロ タ、トゥ モシリ イカシマ ワン モシリ オ
ロ ウン、トゥ 民族 イカシマ ホツネ 民族 イ
ヨロツ ルウエ ネ。

ネ モシリ アナクネ、アイヌモシリ(北海道)、ウ
チナー (沖縄)、日本、アメリカ、カナダ、ハワ
イ、グアム、オーストラリア、バングラデシュ、
フィリピン、ノルウェー、メキシコ、グアテマラ、
ニカラグア、台湾、アオテアロア(ニュージーラ
ンド) ネ ルウエ ネ。

アイヌモシリ 2008 アナクネ、平取、ニ風谷、
札幌 オロ タ アン ワ、1500 パクノ アン ウ
タラ イヨロツ ルウエ ネ。

先住民族 ウタラ アナクネ、カムイトウラ ア
イヌ エネ オカ ヤク ピリカ ヒ ウトウラノ ウ
ネノ エヤイコシラムスイパクス、ウコラムオシ
マ ワ オカ ルウエ ネ。

先住民族サミット

(日本語)

G8 サミットの前に、2008年7月1日から4日
まで、北海道で、日本や色々な国から先住民
族が参加して、「先住民族サミット」アイヌモシ
リ 2008 が開催されました。

7月4日に札幌でその会議があり、その後には
私はG8へ出された提言書のコピーを受け取り
ましたので、その話を書こうと思います。

そこに、12カ国の22民族が参加しました。

その国は、アイヌモシリ(北海道)、ウチナー
(沖縄)、日本、アメリカ、カナダ、ハワイ、グア
ム、オーストラリア、バングラデシュ、フィリ
ピン、ノルウェー、メキシコ、グアテマラ、ニカラ
グア、台湾、アオテアロア(ニュージーランド)
です。

アイヌモシリ 2008 は平取、ニ風谷、札幌で開
かれ、1500人ほどが集まりました。

先住民族たちは、神とともに人間がどのように
生きるとよいかを共に似たように考えているの
で、意気投合していました。

ネ "サミット" アイヌ ウタラ エサンニヨ ワ アン ペ ネ。

G8 サミット アン ヒ タ 先住民族 ウウエカラ パ ワ、G8 オロ タ アエウコイソイタク オルシ ペ ヌ ワ、先住民族 マカナク イキ ヤク ピリ カ ヤ エヤイコシラムスイパ ルウエ ネ。

ネワアン ウウエカラパ タネポ エアシリ アン ペ ネ。

G8 エウン アサンケ カンピ カ タ ウサ オカイ ペ アヌイエ ワ アン コロカ、タネ 言語 オルシペ クヌイエ クス ネ。カシ タ エネ アヌイエ ヒ; "タネ 先住民族 コロ 市民的、政治的、経済的、文化的、社会的権利 ウェンノ アカラ ワ オカ ルウエ ネ。

先住民族 コロ 集団的アイデンティティー カ アコパン ルウエ ネ。

オロワノ、先住民族 コロ イタク ネ ヤッカ コロ プリ ネ ヤッカ チャンチャンケ ヤクン、モシリ エピッタ オカ 文化的、言語的多様性 ネ ヤッカ チャンチャンケ ナンコロ。" セコロ アヌイエ ワ アン。

ネ カンピ カ タ 21 項目 オルシペ アヌイエ ワ アン ルウエ ネ。

オロ タ、15 条 アナクネ 言語 オルシペ ネ ワ、エネ アヌイエ ヒ; "先住民族 ウタラ オカ ウシケ タ ナア 文化センター ネヤ 博物館 ネヤ アカラ ヤク ピリカ。

多文化教育 ネヤ トウ 言語の教育 ネヤ アキ ワ、テエタ ユカラ ネヤ ウウエペケレ ネヤ アエパカシヌ ヤク ピリカ。

コロ イタク ナア アエパカシヌ クニ 教育機関 アカスイ ヤク エアシリキ プ ネ。" セコロ アヌイエ ワ アン。

21 条 アナクネ 日本 オルシペ ネ ワ、エネ アヌイエ ヒ; "日本政府 アイヌウタラ トウラ ウカスイ ワ、国連宣言 日本国内法 ネ カラ ワ ネノ イキ ヤク ピリカ。

アイヌウタラ 先住民族 ネ クニ ラムオシマ ヒ アヌイエ カンピ (決議) ピラサ ワ、政策 カ アシンノ カラ ワ、シネプ ピシノ ピリカノ ウサ オカイ ペ キ ヤク ピリカ。

ネ 決議 オルシペ ナア アエウコラムコロ クニ アカラ 有識者懇談会 オロ タ 委員 トウ ペサニウ アン ルウエ ネ。

このサミットはアイヌ民族が考えて実現したものです。

G8 サミットがあるときに先住民族が集まり、G8 で話し合われた問題を聞いて、先住民族はどうすればよいかを検討しました。

このような集いは今回が初めてです。

G8 へ出された紙(提言書)にはたくさんのお話が書かれていましたが、今回は言語のお話を書きます。そこには以下のように書かれていました; 先住民族へは人種差別がされて、彼らの言葉でも文化でも大事にされません。

先住民族の集団的アイデンティティーも拒まれています。

そして、先住民族の言葉でも文化でも消えていくなれば、世界の文化的、言語的多様性も消えていってしまう」と書かれています。

その提言書に 21 項目のお話が書かれています。

その中の 15 条は言語のお話で、以下の通りです;「先住民族たちが暮らしている場所に、もっと文化センターや博物館などを作ればいい。

多文化教育とか 2 つの言語の教育(バイリンガル)とかをして、昔のユカラ(叙事詩)やウウエペケレ(昔話)を教えればいい。

彼らの言葉をもっと教えるために教育機関を手助けしなければならない」と書かれています。

21 条は、日本に関するもので以下のとおりです;「日本政府はアイヌ民族と協力して、国連宣言を日本国内法にして、そのように実施するとよい。

アイヌ民族が先住民族であると認めたことが書かれた紙(決議)を広めて、政策も新しく作って一つずつきちんといろんなことをやるとよい。

また、この決議のお話をもっと相談するように作られた有識者懇談会に委員が 8 人います。

コロカ、オロ ウン アイヌ シネン タクプ アン
ワ クス、政府 チコチャランケ ルウェ ネ。
ネ 有識者懇談会 オロ ウン 委員 アナクネ、
アラケヘ アッカリ アイヌウタラ ネ ヤク ピリ
カ。" セコロ アヌイエ ワ アン。

6 条 オロタ エネ アヌイエ ヒ; "世界 オロ ワ
先住民族 コロ イタク ソモ チャンチャンケ ク
ニ、マオリ ネヤ オヤ 民族 ネヤ エネ イキ
ヒ アエイコイサムパ ワ、先住民族 コロ イタ
ク ピリカノ イェ クニ 言語 ノトリ ノス 学
校 ネノ アン 学校 アカラ ロ。" セコロ アヌ
イエ ワ アン。

イヨッタ イヨシノ エネ アヌイエ ヒ; "国連宣言
ネノ イキアン ヤクン、先住民族 パテク ソモ
ネ、ウサ オカ ウタラ オロ タ カ、地球 オロ
タ カ ピリカブ ネ ルウェ ネ。

先住民族 コロ イタク アニ ウコイソイタク
ワ、コロ プリ ウケシコロ エアシカイ ヤクン、
世界 オロ ウン 文化遺産 ナア ピリカノ オ
カ ナンコロ。

先住民族 コロ 経済的、文化的、精神的、社会
的、政治的システム インネ ウタラ トウラノ
ウレシパ ヤクン、ポウタリ オロタ カ サンミツ
ポウタリ オロタ カ、ナア ポロンノ ピリカ 未
来 ホツパ エアシカイ ナンコロ。" セコロ アヌ
イエ ワ アン。

【記事の日本語の原文】 G8 サミットに先立って、2008 年 7 月 1 日から 4 日にかけて、古来アイヌの土地であるこのアイヌモシリ(北海道)に、日本および世界の先住民族が集まり、「先住民族サミット」アイヌモシリ 2008 が開催されました。

7 月 4 日に札幌で実施した会議の後に G8 への提言書のコピーが配布されましたので、それを紹介したいと思います。

そこに参加した先住民族は、12 カ国 22 民族です。その人たちは次のところから来ました:アイヌモシリ(北海道)、ウテナー (沖縄)、日本、アメリカ、カナダ、ハワイ、グアム、オーストラリア、バングラデシュ、フィリピン、ノルウェー、メキシコ、グアテマラ、ニカラグア、台湾、アオテアロア(ニュージーランド)などに及び、平取、二風谷、札幌で開催し、1,500 人近くが参加しました。先住民族は、自然と人間との相互関係についての根本的な価値観や考え方を共有しており、それによって一体となっています。

このサミットはアイヌの人々が実現したもので、G8 サミットに合わせて先住民族が集まり、G8 が話し合う問題について考え、それがどのように先住民族に関係してくるかを検討するのは今回が初めてです。

しかし、そこにアイヌの人が一人しかいないので、私たちは政府に抗議します。

その有識者懇談会の委員は、半分以上がアイヌ民族であるといい。」と書かれています。

6 条は、言語に関するもので以下のとおりです;「世界から先住民族の言葉が消えてしまわないように、マオリや他の民族の考え方を真似て、先住民族が自分の言葉をうまく言えるように教える「言語の鳥の巣学校」のような学校を作りましょう。」と書かれています。

一番最後に、次のように書かれています;「国連宣言のようにするならば、それは先住民族のみならずその他の人々や地球にとっても良いことである。

先住民族が彼らの言葉を話し、彼らの文化を大切にするならば、世界の文化遺産はもっと良くなるだろう。

先住民族の経済的、文化的、精神的、社会的、政治的システムが多数の人たちと共存するならば、彼らの子供に、そして孫に、さらにたくさんの良い未来を残すことが可能だろう。」と書かれています。

(G8 への)提言書には種々の問題をあげていますが、特に言語に関するものをあげます。先住民族の持つ市民的、政治的、経済的、文化的、社会的権利への悪質な侵害が継続しており、先住民族に対する人種差別、そして彼らの独自の言語の使用と文化の実践に対する差別的待遇が継続しており、先住民族としての集団的アイデンティティーを承認していないと考えています。また、先住民族言語と文化の消滅が増大し、世界の文化的、言語的多様性をさらに減少させていると指摘しています。

G8 に 21 項目の実行の提言があります。15 条の実行は言語に関するもので以下のとおりです。;先住民族共同体においてさらなる文化センターや博物館設立へ支援を提供し、多文化教育、バイリンガル教育、先住民族の伝統的な口承教授法を含む学習ならびに教育方法の利用、先住民族言語を教授する言語プログラムの促進する教育機関やプログラムの設立に支援を提供するように提言しています。

21 条は、日本に関するもので以下のとおりです;日本政府がアイヌ民族と協力してこの国連宣言を日本国内法として採択し、実施し、アイヌ民族を先住民族として認識した決議を広め明確化するため、具体的な活動や政策改正を行うように提言しています。また、この決議をさらに審議する目的で設立された有識者懇談会の委員 8 名の中にアイヌ民族が 1 名しか含まれていないことに抗議し、この有識者懇談会の委員の少なくとも半数をアイヌ民族によって構成するように提言しています。

6 条は、言語に関するもので以下のとおりです;世界から先住民族の言語が消えてしまうのを止めるため、マオリやその他の民族の経験を活かし、先住民族が自分の言語を流暢に話せるよう指導する「言語の鳥の巣学校」のような場の普及を目指すと提言しています。

結語として以下のようなことばがありました;国連宣言の履行は、先住民族のみならず他の人々や地球にとっても良いことである。彼らが自分の言語を話し、この多様な文化を持ち続けられたなら、世界の文化遺産はより豊かになるであろう。彼らの多様な経済的、文化的、精神的、社会的、政治的システムが優勢勢力と共存できれば、彼らの子供に、そして孫に、さらに多様で希望のある未来を残すことが可能である。

アイヌタイムズをご購入していただける方がお知り合いでいらっしゃいましたら、お声をかけていただくと大変うれしく思います。

購読連絡先: 〒055-0101 北海道平取町二風谷 80-25 萱野志朗(宛)
購読料:1500 円 (4 号ごと/アイヌ語版のみ)
2300 円(4 号ごと/アイヌ語版と日本語版)

読者からの投稿募集:
(連絡先): 〒047-0033
浜田隆史(宛)
北海道小樽市富岡 1-32-136
電子メール: otarunay@yahoo.co.jp
ウェブページ: <https://otarunay.at-ninja.jp/taimuzu.html>

注)アイヌタイムズの著作権は、アイヌ語ペンクラブにあります。

注)1. 赤字は、アイヌ語です。

2. 赤字のイタリック文字は、日本語由来のアイヌ語外来語です。